

「LPモデルを用いるソフトウェア技術の移転に関する特別支援事業」 MOA署名式の開催（ベトナム）



署名式出席者全員による集合写真

JCCP は、平成 25 年度に共同事業である「LP モデルを用いるソフトウェア技術の移転に関する特別支援事業」を開始しており、本年 6 月 20 日、ビンソン石油精製・石油化学株式会社（BSR: Binh Son Refining and Petrochemical Co., Ltd.）との間で、MOA 署名式を開催しました。今回調印した事業の背景・経緯及び事業概要を以下に紹介します。

1. 背景・経緯および事業概要

ベトナムでは急速な経済の成長に伴い石油需要も増加していることから、2009 年に最初の製油所（BSR ズンカット製油所：15 万 BD）が操業を開始し、第二製油所（ニソン製油所：20 万 BD）の建設計画も進められています。しかし、ベトナムにおける製油所操業は始まったばかりの状況にあり、様々

な技術の習熟が必要な状況にあります。製油所は基本的に、原油から、様々な製品を、適切な品質を保ちながら、かつ需要に合わせて過不足なく生産しなければなりません。この製油所操業計画の作成は、非常に複雑な作業を伴います。この操業計画に有効である LP モデルは、ベトナムにおいて、必ずしも広範な活用が行われている訳ではありません。そこで、我が国が有する LP ソフトウェア技術と省エネ技術の移転を図り、ベトナム製油所での効率的な操業を確立する事が必要となっています。本事業は、平成 25 年度から 2 年間の計画で、LP モデルを用いるソフトウェア技術をベトナムに移転し、BSR のニーズに応えるだけでなく、日本国として、ベトナムの発展に大きく貢献できると考えております。また、来年度はこれを複数製油所モデルに拡張し、これからベトナムで建設される予定の製油所も含めて最適化を検討するものです。

2. 署名式の状況

署名式には、在ベトナム日本国大使館の大東参事官のご臨席の下、JX 日鉱日石リサーチの吉田副社長にもご出席頂き、BSR のタン 副社長 (Mr. Nguyen Viet Thang, Vice President) と JCCP 吉田常務理事の間で、MOA への署名が行われました。

署名式では、まず VPI トルン 社長 (Dr. Phan Ngoc Trung, General Director)、BSR のタン 副社長より、それぞれ JCCP 事業への感謝と期待を込めた祝辞を頂きました。次

いで大東参事官からは、今年がベトナムと日本が外交関係を樹立して 40 年となる記念の年であり、今後両国のさらなる友好関係の発展に期待するとのご挨拶を頂きました。また、吉田常務理事より、これまでの JCCP 事業を通じたベトナムとの協力関係や今後のベトナム発展への希望を述べました。吉田副社長は、JX グループのこれまでのベトナムとの関わりや本事業を通じた貢献の期待等を祝辞として述べられました。その後、MOA への署名及び記念品交換が行われ、署名式はなごやかな雰囲気のもと、無事終了することができました。

3. まとめ

今回の署名式は、ベトナム側が十分準備した上で実施され、多くの関係者の出席もあり、本事業への関心の高さ、また日本への期待が非常に高いことが伺われました。署名式に先立ち会場に隣接する資料展示室を見学することが出来、トルン社長より日本側一行に VPI の歴史をご説明頂きました。同室には、過去に行われた JCCP 事業のパネルが掲示されており、ペトロベトナムグループと JCCP との古くからの関係を窺い知ることができました。今回の事業の成果に対するベトナム側の期待は高く、事業の実施を通じて双方の友好関係の発展に資することと思われます。日本とベトナムが共同で実施する本事業が、成功裏に完了し、両国の友好関係の更なる発展につながることを願っています。

(技術協力部 横塚 正俊)



署名後の MOA を交換する BSR タン 副社長と吉田常務理事



VPI 展示室の視察